



Topic 1 研究集会の託児所開設

学会などの研究集会で託児所が併設されるケースが増えてきました。以前までは認められていなかったのですが、科研費 FAQ に託児所利用に関する項目（脚注 1）が追加されたのをきっかけに、休日出席や出張の際の託児所利用料について科研費などの研究費から支出することができるようになってきました。

一方で、研究集会を主催する立場から考えると、ある程度の規模の学会ならともかく、研究者が個人で開催する小集会で託児所が必要な場合はどうしたらいいでしょうか？男女共同参画推進センターが提供する情報、部局によるサポートなど、京都大学における現状と事例をまとめました。



1) 予算は？場所は？

保育室は学会会場にできるだけ近いほうが利用者にとって安心です。鍵がかかる必要は無いですが、安全を確保できること、何かあった時のためにプロの保育士を雇うことが重要です。アジア・アフリカ地域研究研究科のケースでは、研究科内に臨時保育室を設置し、派遣のベビーシッター利用料（保育士 1 名、3 時間で 1 万円程度）も部局内の補助費から賄われました。研究科内には、会議室も託児室として利用できるように、床マットが常備されています。

2) 男女共同参画推進センターが提供できること

同センターにご相談くだされば、いくらかお手伝いできることがあるかもしれません。たとえば、京都市内で利用実績のある業者の情報を提供したり、可能な範囲で玩具や備品を貸し出ししたりすることができます。まずはお問い合わせください（TEL：075-753-2437 Email：w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp）。

3) 研究費が利用可能？

補助事業に関連した研究集会を主催する場合、会場内への託児施設設置に係る費用を科研費の直接経費で支出することはできるでしょうか？これについて、科研費 FAQ に託児所設置に関する項目（脚注 2）が新しく追加されており、「当該研究課題の遂行上必要である場合には支出することができる」とあります。ただし、複数の研究費の補助を受けている場合など、実際に可能かどうかは個別の事情によるかもしれません。

育児介護支援事業 WG では、育児について新たな支援の可能性を模索すべく、コラム「みんなどうしてる？」を立ち上げました。このコラムでは、託児所問題以外にも情報を集約・発信していきたいと考えています。こんなサポートを受けたことがあるよ、こういうサポートがあったらいいな、などなど、コメントをお寄せくださると有難いです（専用アドレス：ikwg@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp）。また、コラムの内容は男女共同参画推進センターの HP にてアーカイブしていきます（www.cwr.kyoto-u.ac.jp）。

（文責 育児介護支援事業 WG）

脚注 1) http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/faq/1400781.htm

脚注 2) http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/faq/1378892.htm

栃木県立宇都宮女子高等学校 京都大学訪問

11月9日（金）9：00から栃木県立宇都宮女子高等学校文理混合の24名の生徒が、昨年に引き続き稲葉 カヨ男女共同参画・国際・広報担当理事、副学長の講義・京大紹介の後、卒業生（文理、大学院生含む）6名との懇談を行いました。

稲葉理事からは京大の紹介とともに、在学生在がどのよ

うに意識が高く自由の校風に沿った楽しみ方をしているかなど動画で紹介されました。その後卒業生との懇談では、京大を志望した理由、京大の魅力、アドバイスなどを身近な存在として意見交換しました。生徒からは勉強の方法など細かい質疑が交わされ有意義な時間となりました。



特別授業 岡山県立岡山操山中学校

11月16日（金）に岡山県立岡山操山中学校の生徒31名、引率教員1名が農学研究科を訪問しました。

農学研究科の講義室にて、山根 久代准教授が講義を行いました。果樹・果実についての研究内容、ワークライフバランスについて話され、「温暖化が進んでも、開花可能な果樹生産技術の開発をすることを研究の目標にして頑張りたい。」「仕事と家庭の両立は大変だが、両立しながら研究の第一線で活躍したい。」と述べられまし

た。そして、4種類の柿からどの柿が甘いかを当てるミニ実験を行いました。タンニンプリント紙を使って調べることで、甘・渋柿の見分けができることが分かり、生徒達からはおもしろいと歓声上がり、大いに盛り上がりました。

その後、柿の果樹園や農学研究科の研究室の見学を行い、参加した生徒は熱心に先生の話に耳を傾けていました。



亀岡市立詳徳中学校 出前授業

10月23日（火）、理学研究科の浅井 歩准教授が亀岡市立詳徳中学校の3年生 105名の生徒に向けて「子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業」を行いました。太陽活動の地球への影響などについてわかりやすく話され、生徒達は興味深く話を聞いていました。



生徒からのアンケートには、「宇宙は私が想像できないくらい大きくて、すごく研究しがいのある分野だと思い、宇宙のことに興味を持ちました。」「太陽にはまだまだわからないことが多く、神秘的なものだということを知りました。」など様々な感想がありました。

女子高生・車座フォーラム2018

12月22日（土）10：00から、京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホールにて「女子高生・車座フォーラム2018」を開催しました。このフォーラムは、男女共同参画推進センターが中心となり、女子高生に京都大学の研究者や科学者の仕事を知ってもらおうという企画です。今年で13回目の開催となり、高校生

119名、保護者67名の参加がありました。お越しいただいた皆様、この度はご参加いただきありがとうございました。

当日の詳しい内容につきましては、「女子高生・車座フォーラム2018 特集号」を発行し、HPにも掲載致しますので、そちらをご覧ください。

Women and the Worldフォーラム

3月4日（月）11：30～13：00にWomen and the Worldフォーラムを開催します。ランチミーティングと

なりますので、昼食をご持参ください。詳細につきましては、後日HPでお知らせ致します。

懇話会セミナー開催のお知らせ

日時 2019年2月14日（木）12：30～14：00頃（入退室自由）

場所 京都大学吉田泉殿1階セミナー室

講師 木下 彩栄氏（医学部人間健康科学科教授）

演題 「認知症の病態と予防から近未来の治療まで」

京都大学の関係者ならどなたでも参加可能です。

参加申込み・お問い合わせは、研究会担当 浅井まで（理学研究科 email: asai@kwasan.kyoto-u.ac.jp）。

女性教員懇話会は、本学における女性研究者相互の親睦・交流等を目的として、1981年に設立された団体です。

連載：研究者になる！－第68回－

京都大学学生総合支援センター
特定准教授 松尾 寛子

●思ってもみなかったキャリア

北海道大学大学院修了後、株式会社リクルートに入社し、人事システムや能力測定、人材育成に関わっていました。その後、東京から関西に拠点を移し、京都大学大学キャリアサポートセンター（当時）で7年間勤務。高知大学に教員として赴任して2年間を過ごした後、京都大学に戻り、学生総合支援センターで京大生のキャリア教育や就職支援を担っています。キャリアのスタートが民間企業であることや「学生総合支援センター」という耳馴染みのない部署にいるため、「研究者」のイメージからは少し離れているかもしれません。私自身、数年前まで大学教員になるとは思っておらず、大学で学生を前にしていると、今も不思議な気持ちになることがあります。

●学生時代は大規模データの分析とスノーボード

学生時代は行動計量学を専攻していました。専攻希望調査の時点では、認知系の心理学を選択するつもりでしたが、研究室説明会で急遽変更。今もご指導いただいている大津 起夫先生（現・日本入試センター 試験・研究統括官）との出会いでした。配属後、ほぼマンツーマンのご指導のもと、学部・大学院を通じて“The Bell Curve”の再分析を行いました。数十万件のデータを分析し、人々のどんな属性や経歴が高収入に結びつくのかを探る研究で、社会学では階層研究と呼ばれる分野です。この時期に統計分析の基礎を学べたことにはとても感謝しています。

研究と並行して熱中したのが、スノーボードのアルペン競技。「せっかくなら北海道らしいスポーツを」と始めたところ、たちまち夢中になり、社会人チームに参加していました。インストラクターの資格も取り、遠征費用をレッスンで稼ぐ「雪山サイクル」で、学部生時代は一年の半分以上をスキー場で過ごしました。完全燃焼したせいか、北海道を離れてからは一度もスノーボードはしていません。



●点と点がつながっていく楽しさ

大学院修了後、入社したリクルートでは出版事業を希

望しましたが、配属は予想外の人事システムコンサルティング部門。希望の配属ではありませんでしたが、学生時代のデータ処理の経験からデータベース構築やプログラミングに難なく馴染め、自分の中では「点」であった大学の研究が今の仕事と「線」で繋がった感覚がありました。その後、適性検査の開発や人材育成コンサルティングにも関わりましたが、統計の知識が応用できたり、システム構築の経験がサービス開発のきっかけになったりと、点と点が繋がることで仕事を楽しく続けられたように思います。

キャリア理論の中で「計画された偶発性」という概念があります。ごく簡単に言い換えると「キャリアは用意周到に計画して形成されるものではない。大半が予想せぬことの積み重ねでできている」という考え方です。私のキャリアは計画性なし。これからも偶然起こることを楽しみつつ、歩んでいきたいと思っています。

●研究テーマは日本の新卒採用と大学生のキャリア形成

日本の新卒採用は「大学生が同じ時期に、一斉に、就業後の業務を指定されずに就職活動をする」という点で他国と異なります。また政府や大学、企業が採用活動にルールを設ける動きも特徴的です。最近話題になっている「守られない」採用活動解禁日の設定は100年近く前から幾度となく繰り返されてきています。これらの制度がなぜ日本社会に深く根付き、継続されているのか、そして、この制度のもとで就職活動をした大学生のその後のキャリア形成はどうなっているのかを明らかにしたいと思っています。その上で、日本の就職・採用活動の改善に向けて何らかの提言ができれば本望です。

近年、女性が牽引する社会運動が世界的に大きな影響力を持ってきています。こういった運動とその影響力を見るにつけ、自分に課された責任を果たすことについて考えます。多様性を認め合いながら一人ひとりがいきいきと働ける社会の実現に貢献したいと思っています。

編集後記

育児介護支援事業 WG では、育児について新たな支援の可能性を模索すべく、コラム「みんな どうしてる？」を立ち上げました。コメントをお寄せください。詳しくはHPで。

Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町
電話 075 (753) 2437
FAX 075 (753) 2436
E-mail w-shien@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
HP <http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>